

E C C 国際外語専門学校 学校関係者評価報告書及び評価結果の活用状況

学校法人山口学園 E C C 国際外語専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 27 年 9 月 11 日に「2014 年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施し、評価結果を学校運営に以下のように活用しましたので報告いたします。

平成 27 年 10 月 5 日
学校法人山口学園
E C C 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（「E C C 国際外語専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

【関連業界等関係者 「同第 12 条第 1 項（1）」】

委員長

三橋 滋子 氏（一般社団法人 日本添乗サービス協会 専務理事）

明松 克司 氏（ベイエリアサービス株式会社 代表取締役）

高岸 誠 氏（セントレジスホテル大阪 HR オフィサー）

【卒業生 「同第 12 条第 1 項（2）」】

阿比留 将成 氏（同志社大学）

【保護者または地域関係者 「同第 12 条第 1 項（3）」】

吉川郁夫 氏（大阪市北区社会福祉協議会 / 大阪市北区民生委員児童委員協議会）

【E C C 国際外語専門学校 学校長】

伊藤 功

【同席者】

福本 雄三（E C C 国際外語専門学校 副校長）

小島 淳一郎（E C C 国際外語専門学校 進路指導課責任者）

松井 治（E C C 国際外語専門学校 教務課責任者）

大谷内 圭（E C C 国際外語専門学校 教務課副責任者）

辻井 秀司（E C C 国際外語専門学校 教務課）

三木 武志（学校法人山口学園 自己点検評価室）

2. 基準項目ごとの学校関係者委員からの評価・意見と評価結果活用状況

項目	評価・意見・活用状況
基準 1 教育理念・目標 基準 2 学校運営	・特に問題なし。

<p>基準3 教育活動 基準4 学修成果 基準5 学生支援</p>	<p>(評価委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「国際力」に関して英語の実力は認めるところである。業務に携わっていて韓国語の資格がある学生の採用が増えている。韓国企業との取引も多く韓国語の資格がある学生が増えるのは歓迎である。韓国で採用した日本語の敬語やマナーもマスターしている社員と日本人で韓国語ができる社員と比較して日本語力が韓国で採用した人が日本語力があったりするので外国語はもちろん、日本語力向上にも期待したい。 <p>(評価の活用状況)</p> <p>本校は、2016年度開講の新コースとしてアジア言語コースの韓国語専攻、中国語専攻を募集している。今のところ韓国語専攻の募集は好調である。2016年度入学生のカリキュラム作成にあたっては、入学後は海外留学もあり、課題として先を見据えた就職の部分を考え、韓国語の語学力の向上のみならず、日本文化・マナー・敬語の授業の強化をはかる。</p> <p>日本語力の向上については、ディスカッションの機会や小論文作成の内容を設定予定の「プレゼンテーションコンテスト」の授業の中に入れていく。</p>
<p>基準6 教育環境 基準7 学生の受入れ 募集</p>	<p>(評価委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層減少の中で入学者が増えているのはなぜか？ <p>コースカリキュラムの改善等により就職実績と編入学実績が上がっていることで高校現場の先生方からの評価も上がっていることや在学生からの口コミや評判で志願者が本年度も前年度2割増して推移している。</p>
<p>基準8 財務 基準9 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし。
<p>基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>(評価委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中崎町は梅田の繁華街と近接しているが文化的な街づくりを地域としてすすめている。社会貢献センターとも連携して地域として一緒に街づくりをすすめてほしい。 <p>(評価の活用状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コースとも設定している「サービラーニング」の授業内容をより、地域密着型にしていく。中崎町、大阪市北区、大阪市との連携を深め、関係性の強化に努めている。 <p>大阪駅周辺での外国人エスコートボランティアの拡大、天神橋筋商店街とのコラボレーションによる商店街活性化の取り組みなどを進めている。</p>

基準 11 国際交流	・特に問題なし。
------------	----------

3. 学校関係者評価 全体的な総括について

項目	評価・意見
自己評価報告書を見て の全体的な評価・意見	<p>(評価委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校方針やカリキュラム等は業界として期待するポイントを押さえている。インターンシップ時に何かあった際直接学生のことをよく御存じの担任の先生に直接問い合わせできるのはありがたい。 ・バディ制度も日本語学科の留学生と日本人在校生がお互いに支え合う制度として魅力的に思う。 ・卒業生として母校の状況は気になるので委員会に出席させていただいて母校のことを知ることができたのは良かった。 ECCで学べたことに感謝しているので卒業生として社会で活躍することが本校に貢献できることの一つだと思うので頑張っていきたい。 <p>(評価の活用状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と研修先、インターンシップ先、企業との連携の強化を進めている。とくに児童養護施設や、海外研修における緊急時対応の体制の明確化をすすめ、教職員内での共有を図るようにしている。 ・日本語学科に来る留学生との交流機会を拡大している。バディ制度に加え、校舎内に留学生が日本語でフリートークできるスペースを設置し、日本語を学習したい留学生と国際交流を希望するコース生との交流機会をを拡大した。 ・卒業生の講演による、在校生との交流機会の拡大をはかる。授業内や放課後のプログラムで卒業生を招待し、業界の状況や勤務の状況を講演してもらう回数を増やしている。

以上